

第九十一回 楽々俳句会(ちば歩)

令和五年一月十二日(木) 晴

吟行..なし 十三時集合 投句三句 五句選

句会場..市民活動センター

武久	火を止めし七種ばつと野の如し	成子
久	2日向ぼこ割り込む吾子の影二つ	宣子
久	1巫女と禰宜袴の折目淑気かな	成子
武久	2左義長を見届けしばし無垢となる	酒泉
久	21思ふこと思ひ出すこと年新た	育子
久	13初句会三夜寝かせ決する句	恵美子
久	12校庭の土俵ゆさぶる初稽古	宣子
武	6一椀の雑煮に家風受け継がれ	洋子
武	2枯葦を残し新たな風の道	粹歩
武	2合う人のないけど向かう鏡餅	ミチ子
久	1ふつつと湯豆腐の角踊りかな	洋子
久	春近し遠くを見据え忠敬像	園子
久	読始めついついカフェに長居せり	武彦
久	2新年の抱負のあれど足るを知る	今日子
久	13柚子の香や五体どっぷり仕舞風呂	宣子
久	12地下足袋の小鉤掛け足る農始	久登
久	11ひた走るだるまストーブ鯛の香	洋子
久	五能線だるまストーブ鯛の香	
久	11奥宮へ続く寒さや要石	久登
久	11起きぬけの喉もと通る寒の水	ミチ子
久	1きんとんの大栗食べる八十の春	武彦
久	4ヨチヨチの賀客の靴も揃いたる	恵美子
久	3江戸の名を残す坂道冬茜	ミチ子
久	3二日朝箱根山路襷継ぐ	利太郎
久	2書初めやドデンと坐る「夢」一字	園子
久	2北国の友は辛からう空氷る	豊隆
久	2冬探し歩巾合はする老二人	育子
久	2僧達の吐く息白し成田山	粹歩
久	1おめでとうライン着信鳴り渡る	静代
久	直ぐ返事	

参加者 投句

成子・洋子・恵美子・弘子・育子・ミチ子・静代・今日子・園子	利太郎・粹歩・豊隆・酒泉・武彦・久登
欠席 信雄・榮子 友一	
二月九日 (木) 千葉神社 十時集合 十三時 活動センター	
三月九日 (木) 県庁玄関 十時集合 十三時 活動センター	
四月十三日 (木)	十時活動センター

1 蒲団干し日向の匂い胸いっぱい	弘子
1 岬にて荒波見下ろす寒椿	利太郎
1 咲き満ちて人をひきつけ福寿草	育子
福寿草先満ちてをり歩とどめん	恵美子
1 納め札火の粉舞ひ上ぐ浄化かな	武彦
1 今にして家の雑煮と気付きけり	静代
1 初句会まずは食欲笑顔から	粹歩
1 白壁の土蔵に映る冬柳	豊隆
1 過ぎし日の詠ふみ超へて初句会	
仰ぎ見る香取神宮大注連	
成人の日華やぐ娘母感涙	
母感涙娘華やぐ成人の日	
この道の刹那に消ゆる冬夕焼	
絵手紙風の灯籠迎ふる七福神詣	灯籠 七福神詣
福詣大黒様は一番目	
寒木瓜の紅染める軒雀	
寒木瓜や天水桶の寒雀	
レントゲン写真メタセコイアへ初日の出	
初日の出メタセコイアのあばら骨	
添え書きの太文字懐かし賀状書く	
初暦まず書き入れし吟行日	
去年今年コロナ禍続きつかれたり	
時を超へ皇女の道に枯葉舞ふ	
大江戸へ皇女の道や枯葉舞ふ	
着膨れや電車のシート余裕なし	
ビル間出る冬満月の絞り顔	
ビル間出る冬満月の黄身の如	